[成果情報名]大玉で糖度が高く食味が優れるモモ新品種「飛騨おとめ」

[要約]「飛騨おとめ」は、「川中島白桃」に「やまなし白鳳」を交配して育成したもので、育成地の岐阜県飛騨市では「白鳳」と「昭和白桃」の中間時期に収穫できる中生品種である。大玉で着色が良く、高糖度で食味良好である。

[キーワード]モモ、新品種、飛騨おとめ、中生品種

[担当]岐阜中山間農研　試験研究部

[代表連絡先]電話　0577-73-2029

[区分]関東東海北陸農業・果樹

[背景・ねらい]

岐阜県飛騨地域のモモは、「白鳳」と「昭和白桃」を基幹品種として栽培されているが、両品種の間には収穫量が落ち込む端境期が生じている。また、温暖化に伴って収穫期が早まることで、旧盆前の高需要期と端境期が重なることが危惧されている。このため、本県の気象条件に適合し「白鳳」と「昭和白桃」の中間時期に収穫できる新品種の育成に取り組んだ。

[成果の内容・特徴]

１．「飛騨おとめ」は、1998 年に晩生の「川中島白桃」に早生の「やまなし白鳳」を交雑して得られた実生の中から選抜された。大玉で食味が優れることから、2012 年 11 月に品種登録を出願し、2013 年 12 月 16 日付けで品種登録された（第 22894 号）。

２．樹勢はやや強く、樹はやや大きくなる。１年枝上の花芽の着生は非常に多いが、葉芽の着生は少ない（表１）。

３．発芽期および開花期は、「白鳳」や「昭和白桃」より２～３日早く、花粉は少ない（表１）。

４．収穫期は育成地の岐阜県飛騨市において８月中から下旬で、収穫始期は「白鳳」より 11 日遅く、「昭和白桃」より６日早い。このため、「白鳳」と「昭和白桃」のほぼ中間に収穫でき、端境期を埋めることができる（表２）。

５．果実はやや腰高の円形で、平均果重は 320ｇ程度と大玉である。片肉果の発生が少なく着色良好で、果実の揃いもよく外観に優れるため秀品率が高い。年によって多発する核割れ果やミツ症果の発生は少ない（表２）。

６．果実糖度は 16°以上と高く、酸度ｐＨは 4.9、硬度は 2.3kg/cm^{2}である。肉質、果汁、香気共に中程度であるが、甘味が非常に強く食味は良好である（表２）。

[成果の活用面・留意点]

１．栽培は、当面岐阜県内に限定されている。

２．開花期が早く花粉が少ないため、着果不足が心配される場合は人工授粉を実施する。

３．葉芽が少なく枝がはげ上がりやすいため、冬期せん定時に結果枝の切り戻しを適宜行う。

４．無袋栽培も可能であるが、病害虫防除と着色向上を目的として、二重袋による有袋栽培を行うのが良い。

５．凍害による枯死樹の発生を軽減するため、「ひだ国府紅しだれ」実生台木を使用することが望ましい。

［具体的データ］

図１　「飛騨おとめ」収穫直前の果実

表1 「飛騨おとめ」及び基幹品種の樹体特性（2009～2013年の平均）

品種名	樹勢	樹の大きさ	花芽の着生	葉芽の着生	発芽期（月/日）	開花期(月/日) 始期	満開期	終期	花粉の多少	生理落果の多少[z]
白鳳	中	中	多	中	3/28	4/28	5/1	5/6	多	少
飛騨おとめ	やや強	やや大	多	少	3/26	4/26	4/29	5/5	少	微
昭和白桃	中	やや小	多	中	3/29	4/29	5/2	5/7	多	中

[z] 二重袋による有袋栽培での発生状況

表2 「飛騨おとめ」及び基幹品種の収穫期と果実品質（2009～2013年の平均）

品種名	収穫期(月/日) 始期	盛期	終期	果形	果重(g)	片肉果の多少	着色	玉揃い	秀品率（%）	糖度（°Brix）	酸度（pH）	果肉硬度（kg/cm^2）
白鳳	8/3	8/7	8/13	円形	298	少	中	中	51.0	15.9	4.7	1.5
飛騨おとめ	8/14	8/20	8/25	円形	319	微	多	良	78.1	16.7	4.9	2.2
昭和白桃	8/20	8/24	8/30	扁円形	379	中	中	不良	57.0	17.1	4.6	2.3

［その他］

研究課題名：中山間地特産果樹モモ、リンゴ、クリ等の新品種育成と栽培技術の開発
予算区分：県単
研究期間：1998～2013 年度
研究者担当名：宮本善秋、神尾真司
発表論文等：